伝えることを目標に発表会を行った。

4. 研究協議

公開授業の反省、質疑応答の後、「話す・聞く」 力を生かしたコミュニケーション能力の育成をテーマに学年に分かれ、授業参観の感想を基にワークショップを行った。よかった点として、話し方・聞き方ルールの定着、学習リーダーの役割、学習課題の確認などがあげられた。工夫すべき点として、国語科における複式授業のあり方(声の大きさ・授業の流れなど)、子ども達の話し合いの形式について出された。

第8分科会 新十津川町立花月小学校



1. 研究主題

「自分の思いや願いを大切にし、生き生きと瞳輝 く子どもの育成」~一人一人が主人公となる学習の 創造~

2. 研究内容

研究の仮説1を「算数科を中心とした教科学習において、その教科に対する子どもたちの思いや願いを意識することにより、お互いに学び合いながら、自ら判断し、課題を解決していくことができるだろう」、仮説2を「評価活動を充実させることにより、自ら追求しようとする意欲をもつとともに、他とのかかわりを深め、自分を高めようとすることができるだろう」とし、2つの研究の視点を設定し研究を進めてきた。

<視点1>では、「思いや願いを意識する工夫」とし、子どもたちの思いや願いを把握し、分析を「学びの複線化」に生かしていくことを試みた。

⟨視点2⟩では、「評価活動の充実」とし、評価カードと指導案、指導計画とをリンクさせることで、評価と指導の一体化をはかっていった。また、子どもが主体となる自己評価の工夫についても模索した。

3. 公開授業

公開授業①=1年生「3つの数のたしざんひきざん」では、教科書の挿絵を3分割して提示することで、ひき算の立式を円滑に行うことをねらった。スムーズに立式できていた。

公開授業①=3年生「水のかさ」では、1 ℓ マスを使い、計算結果が正しいかどうかを確認させた。マスの操作には、十分な事前指導が必要だった。4

年生「小数」では、長さを実際にはかりとり、小数 の課題につなげた。ヒントを有効に活用して取り組 んでいた。

公開授業①=特別支援学級6年生「たすのかな、ひくのかな」では、買い物学習(商品が2つ)を通して、代金とおつりを考えさせる活動を行った。事前学習の時間が短かく、やや難しい課題となってしまった。

公開授業②=2年生「三角形と四角形」では、ドットプリントを活用して、楽しみながら三角形、四角形の作図の基礎を学んだ。全員、ヒントを使わずに作図することができた。

公開授業②=5年生「平行四辺形や三角形の面積」では、平行四辺形での経験を生かして、三角形の面積を求める方法を考えた。直角三角形の使用で、スムーズに思考出来た。6年生「体積」では、直方体の複合形の体積を求める方法を考えた。4年生で学んだ「長方形の複合形」の体積を求める活動を想起させることで、意欲的に考えることが出来た。

4. 研究協議

公開授業①・②双方の授業者から反省を述べた後に、柱に沿って論議が交わされた。〈視点1〉の「学びの複線化」については、ヒントのあり・なしでコース分けをするよりも、子ども達にとっての「壁」をのりこえる活動があったほうが、充実感、達成感につながるのではないかという指摘をいただいた。〈視点2〉に関わっては、児童相互の関わりを深める意味での評価活動のあり方について、話題になった。また、「学びを支える5つのステップ」に関しては、問題から課題に移る時に、子ども達に課題をつかませることがスムーズに出来ていた、という評価をいただいた。

建設的な意見を多数頂き、最終年次となる次年度 研究につながる貴重な話し合いの場となった。

第9分科会 芦別市立常磐小学校



1. 研究主題

「自ら考え、学ぶ喜びを実感する子どもを目指して」~表現力を高める指導の工夫~

2. 研究内容

研究仮説を、①それぞれの学習過程を吟味・工夫 し、意欲を喚起する授業を作りあげていくことで、 主体的に学習することができる。②表現力を高める